現代社会と人権

名前

問1　対立する意見を調整して合意をつくる際、効率とともにもう一つの重要な視点となるのが「公正」です。このうち、物事を決定する過程において、関わる人々全員が参加でき、不当な扱いを受けないように配慮することを何と呼びますか。（2023年 山梨県公立入試 類似）

1. 結果の公正さ
2. 機会の平等
3. 手続きの公正さ
4. 資源の効率的な配分

問2　中学生たちが「誰もが安心して暮らせる社会」について討論している場面を想定します。その中で、車椅子を利用する人が公共交通機関をスムーズに利用できるよう、バスの乗降口の段差をなくすといった取り組みが挙げられました。このように、高齢者や障害者が社会生活を送る上での物理的な障壁を取り除くという考え方を何と呼びますか。（2017年 沖縄県公立入試 類似）

1. クーリング・オフ
2. ワーク・ライフ・バランス
3. バリアフリー
4. インフォームド・コンセント

問3　現代社会において、人、もの、お金、情報などが国境を越えて地球規模で活発に行き交い、世界の一体化が進む現象を何と呼びますか。（2019年 鹿児島県公立入試 類似）

1. グローバル化
2. 情報化
3. 多文化共生
4. 少子高齢化

問4　日本が1994年に批准した「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」の条文では、自己の意見を形成する能力のある児童の権利についてどのように規定されていますか。適切なものを選びなさい。（2022年 新潟県公立入試 類似）

1. 成人の意見に従うことを条件に、特定の学習活動においてのみ意見を述べる権利を確保する
2. 将来の職業選択に関してのみ、行政機関に対して直接意見を表明する権利を確保する
3. その児童に影響を及ぼす全ての事項について、自由に自己の意見を表明する権利を確保する
4. 選挙権の行使と同様に、政治的判断に関わる全ての事項に投票する権利を確保する

問5　日本国憲法第13条の「個人の尊重」の規定を根拠として認められている、自分の生き方や医療の受け方、臓器提供の有無などについて、自らの意思で決定する権利を何といいますか。（2018年 三重県公立入試 類似）

1. 団結権
2. 生存権
3. 知る権利
4. 自己決定権

問6　社会的な対立が生じた際、話し合いを通じて合意を目指す過程で重視される「公正」と「効率」という2つの考え方のうち、「公正」の説明として最も適切なものはどれか。（2021年 鳥取県公立入試 類似）

1. 話し合いに参加する人数を制限することで、できるだけ短時間で結論を出すことを優先する考え方。
2. 解決策を導き出すまでの手続きが正しく行われ、特定の人たちが不当な扱いを受けていないかを判断する考え方。
3. 時間、お金、労力などを無駄に使わずに、社会全体としてより大きな利益が得られるかを判断する考え方。
4. 一部の人の意見を強く反映させることで、対立を速やかに解消し、社会の秩序を保とうとする考え方。

問7　2006年と2011年の「高齢者」「子ども」「まちづくり」などの各分野におけるボランティア活動の統計を比較すると、多くの分野で「行動者率（活動に参加した人の割合）」が微減する一方で、活動に従事する「平均行動日数（参加した人が年間で平均して活動した日数）」が増加するという傾向が見られました。このデータから読み取れる、ボランティア活動の実態の変化として最も適切な説明はどれですか。（2016年 愛媛県公立入試 類似）

1. 特定の分野にボランティアが集中したため、すべての分野で平均行動日数が横ばいになっている。
2. ボランティアに参加する人の裾野は広がっているが、一人あたりの活動頻度は低くなっている。
3. ボランティア活動を支援するNPO法人の数は増えているが、活動に参加する個人の熱意は低下している。
4. ボランティアに参加する人の割合は減っているが、参加している人はより継続的かつ頻繁に活動するようになっている。

問8　デジタルデバイドが生じる要因の一つとして、機器を所有しているかどうかだけでなく、情報を正しく選択・活用できる能力の差が指摘されています。インターネット上の膨大な情報から必要なものを取捨選択し、適切に扱うことができる能力を何といいますか。（2023年 長崎県公立入試 類似）

1. ユニバーサルデザイン
2. 情報リテラシー
3. プライバシーの権利
4. 知的財産権

問9　コンピュータによって人間の知的な活動を再現する技術は、現代社会のさまざまな分野で活用されています。ある新聞記事で紹介された「自動運転技術」や、機械が糖尿病網膜症などの病気の兆候を判断する「医療分野での活用」に共通して使われている、この技術の名称として最も適切なものを選びなさい。（2022年 佐賀県公立入試 類似）

1. ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）
2. 人工知能（AI）
3. 情報通信技術（ICT）
4. モノのインターネット（IoT）

問10　社会生活において、意見の対立を解決し集団の決定を行う際に重視される「公正」と「合意」という考え方について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。班での話し合いにおいて、複数の候補店から行き先を決定する場面を想定して答えなさい。（2024年 富山県公立入試 類似）

1. 決定に至るまでの手続きや内容が不当でない状態を確保し、関係者全員が納得できる一致点を見出すこと
2. 話し合いの時間を短縮することを最優先し、最も多くの支持を集めた案を検討なしに即座に採用すること
3. 市場原理における競争の考え方を取り入れ、最も高い経済的利益を上げた人の意見を優先的に採用すること
4. 個人の自由な意思を最大限に尊重するため、集団としてのルールや結論をあえて決めないようにすること

問11　少子高齢化が進む現代社会において重視されている「バリアフリー」の考え方に基づいた施策として、最も適切なものはどれか。（2018年 愛媛県公立入試 類似）

1. 民間企業が自由に競争できる環境を整え、市場の活性化を通じて経済を成長させること
2. 高齢者や障害者が公共施設を安全に利用できるよう、スロープの設置や段差の解消を行うこと
3. すべての人に等しく政治参加の機会を与えるため、一定の年齢に達した国民に投票権を認めること
4. 国民が自らの意志で住む場所を決め、希望する仕事に就ける権利を法的に保障すること

問12　スマートフォンの普及やSNSの利用が拡大する現代社会において、自分の顔や姿を無断で撮影されたり、許可なくインターネット上に映像を公表されたりしないように主張できる権利を何といいますか。（2023年 岐阜県公立入試 類似）

1. 環境権
2. 著作権
3. 知る権利
4. 肖像権

答え合わせ・解説

問1	答え 3 手続きの公正さ	社会的な決まりを作る際、一部の人だけで決めるのではなく、関わる全員が参加できる権利を保障し、その過程が適正であることを「手続きの公正さ」といいます。これに対し、得られた結論が不当な格差を生まないように配慮することは「結果の公正さ」と呼ばれます。
問2	答え 3 バリアフリー	高齢者や障害者にとって社会生活の妨げ（障壁）となる物理的な段差や、制度的・心理的な壁を取り除くことをバリアフリーといいます。問題文にある「車椅子の人が乗りやすいバス（ノンステップバスなど）」の導入は、物理的な障壁を解消する代表的な具体例です。他の選択肢について、インフォームド・コンセントは医療における説明と同意、ワーク・ライフ・バランスは仕事と生活の調和、クーリング・オフは一定期間内の契約解除権を指す用語です。
問3	答え 1 グローバル化	交通網やインターネットなどの通信技術が発達したことで、人や物、資金、情報が国境を意識せずに移動するようになりました。この世界規模でのつながりの強まりを「グローバル化」と呼びます。似た用語に「情報化」がありますが、これは情報の価値が高まり情報技術が広まることを指すため、区別が必要です。
問4	答え 3 その児童に影響を及ぼす全ての事項について、自由に自己の意見を表明する権利を確保する	子どもの権利条約は、子どもの「生存」「保護」「発達」に加えて、自分の意見を尊重される「参加」の権利を重視しています。特に条約の中では、子ども自身に関係することについて、その意見が無視されることなく、自由に表明でき、かつ年齢や発達に応じて適切に考慮されるべきであるという「意見表明権」が明確に示されています。
問5	答え 4 自己決定権	個人の尊厳に基づき、私的な事柄について公権力の干渉を受けず、自らの意思で決定できる権利を指します。医療技術の進歩や社会環境の変化に伴い、新しい人権の一つとして重要視されるようになりました。
問6	答え 2 解決策を導き出すまでの手続きが正しく行われ、特定の人たちが不当な扱いを受けていないかを判断する考え方。	合意形成において「公正」とは、手続きが公平であること（手続きの公正）や、不当な不利益を被る人がいないこと（結果の公正）を指します。一方、無駄な資源や労力を使わずに目的を達成しようとする考え方は「効率」と呼ばれます。民主主義社会では、この両方のバランスを考えながら、みんなが納得できる合意点を見つけることが求められます。
問7	答え 4 ボランティアに参加する人の割合は減っているが、参加している人はより継続的かつ頻繁に活動するようになっている。	行動者率の低下は、社会全体の中でボランティアに参加する人の割合が減ったことを意味します。一方で、平均行動日数の増加は、活動に参加した人が1年間に活動する日数が増えたことを示しています。これらを比較・分析すると、ボランティア活動が「広く浅く」行われる状態から、特定の熱心な層によって「深く継続的」に支えられる構造へと変化したという背景が読み取れます。このように、統計データから活動の密度や定着度を分析することは、現代社会の課題を理解する上で重要です。
問8	答え 2 情報リテラシー	情報社会においては、単にスマートフォンやパソコンなどの端末を持っているだけでなく、情報を適切に読み解き、活用する「情報リテラシー」が重要視されます。この能力の差は、情報の真偽を見極める力や、情報を自己の利益や社会参加に役立てる力の差となり、結果としてデジタルデバイドを深刻化させる原因となります。
問9	答え 2 人工知能（AI）	人間の思考や学習といった知的な活動をコンピュータに行わせる技術を人工知能（AI）と呼びます。大量のデータを分析して特徴を読み取ることで、車の運転における状況判断や、医療画像から病気の兆候を見つけ出すなど、従来は人間が行っていた高度な判断を伴う作業に活用されています。これにより、交通事故の削減や病気の早期発見が期待されています。
問10	答え 1 決定に至るまでの手続きや内容が不当でない状態を確保し、関係者全員が納得できる一致点を見出すこと	社会的な意思決定では、偏りがない正当なプロセスや基準を意味する「公正」と、話し合いを通じて参加者が納得し意見を一致させる「合意」の形成が重要です。これらは、単なる多数決で少数の意見を切り捨てるのではなく、民主的な手続きによって社会の秩序を保つために欠かせない概念です。選択肢にある「自由」や「競争」も社会の重要な要素ですが、対立を解決して集団の決定を行う場面においては、「公正」と「合意」が直接的な判断基準となります。
問11	答え 2 高齢者や障害者が公共施設を安全に利用できるよう、スロープの設置や段差の解消を行うこと	この考え方は、特定の身体的条件や年齢にかかわらず、すべての人が社会の一員として自立した生活を送れるようにすることを目的としています。単に自由を認めるだけでなく、物理的・制度的な壁を具体的に取り除く「施設改善」などのアプローチが含まれる点が特徴です。
問12	答え 4 肖像権	現代社会ではIT機器の活用により、誰もが簡単に写真や動画を撮影・発信できるようになりました。これに伴い、個人の私生活をみだりに公開されない「プライバシーの権利」の重要性が高まっており、その具体的な内容の一つとして、自分の容姿を勝手に公表されないこの権利が認められています。